博物館概論				単位数	2単位
授業コード	16700	科目ナンバリング	550Z0-1000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

博物館・美術館の歴史をたどり，博物館の目的と機能や関係法規に関する基礎的知識を習得することを目的とする。さらに博物館の今日的課題ひいては，博物館の未来像を博物館倫理も踏まえながら探求する。また，個々の学芸員がどのような倫理（モラル）とモチベーションを持ちながら博物館活動をおこなっているかを，具体例を示しながら，改めて「学芸員」とは何か？について考察する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	博物館・美術館の市民社会における役割を認識し，そのための機能・内容等についての最新状況を含めて説明できる。	
2	博物館法という最低限の「申し合わせ」を認識し，それについて具体的に説明できる。	
3	博物館としてのポリシー，個としての学芸員のポリシーを具体的に論じることができる。	
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　100%	1／2／3
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 博物館の存在意義−博物館と国民の文化的欲求−
2 学芸員とは何か−研究、展示、教育普及、資料保存−
3 博物館の分類−専門博物館と総合博物館−
4 博物館の倫理−学芸員の倫理性−
5 博物館利用の方法−教育機関としての博物館−
6 海外の学芸員−その社会的ステイタス−
7 従来の博物館学−デッドミュージアムとは何か−
8 博物館法の問題点−博物館を生かす為の「法律」−
9 日本人的思考回路−明治以降の学校教育−
10 博物館前史−社会文化からみたヨーロッパと日本の比較−
11 近代博物館の出発−展示資料の文化的背景−
12 開かれた博物館の誕生−「物」から「事」へ−
13 これからの博物館に必要なもの−グローバル化と地域密着型−
14 学芸員の活動紹介−個と市民−
15 展覧会プロデュース−他分野の専門家との共同作業−

定期試験
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 　自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社 『博物館を考える-新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社 ※購入方法についてはおって指示する ＜参考書等＞ なし
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく，考えながら聞くという姿勢で，授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料論				単位数	2単位
授業コード	16710	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	橋本　龍				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

博物館の資料とは、博物館活動の基礎をなす、必要不可欠なものである。資料無くしては、研究も展示も教育も成り立たない。博物館資料とは何か、また資料の収集や登録・整理保管に関する理論や方法を実例に即して把握し、資料を取り扱う上での基礎的な知識を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①博物館における資料の基本的な分類と、収集や登録・保管管理に関する理論や方法を及びその活用を説明できる。	
2	②それぞれの資料の特徴や歴史的・美術史的な意義を説明できる。	
3	③資料の取り扱いに関する注意点を理解し、実際に扱うことができる。	
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	博物館資料について（講義第1回～第4回）のレポート（40%）	1
2	博物館資料の活用（講義第12回～第14回）についてのレポート（40%）	1／2
3	実習態度（20%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

自然科学博物館の技術者・美術館の学芸員として、資料収集（発掘調査）、資料の管理及び展覧会などの企画・運営、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史などに関する調査などに従事した経験から、多様な博物館資料について実践的な講義を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　博物館資料の概念
2　博物館資料の収集Ⅰ-収集の理念と資料の分類-
3　博物館資料の収集Ⅱ-博物館資料になるまで-
4　博物館資料の収集Ⅲ-収集の課題-
5　資料取り扱いの基礎知識（実習Ⅰ）
6　能装束と能面
7　書跡・典籍・絵画資料
8　掛軸・巻子の取扱い（実習Ⅱ）
9　漆工品と陶磁器
10　刀剣および金工品
11　刀剣の取り扱い(実習Ⅲ)
12　博物館資料の公開Ⅰ-研究・展示-
13　博物館資料の公開Ⅱ-展示見学（林原美術館見学）-
14　資料の劣化要因と保存・修復
15　博物館資料の現状と未来

定期試験
レポート提出（2回）
試験のフィードバックの方法
締切後の講義内で解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）予定されているテーマについて、関連する文献等で確認を行い、疑問点をまとめて質問が出来るようにしておくこと。 （復習）講義で配布した資料、紹介した図書にて理解を深める。 予習・復習で2時間程度の学習時間が望ましい。 このほか、自由時間等で博物館・美術館を訪問したり、博物館について最新の情報に関心を持ってほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書＞ 参考書は講義時に適宜紹介する。
オフィスアワー
質問は授業後に受け付ける。
連絡先
E-mail：s8334@m.ndsu.ac.jp 林原美術館 Tel：（086）223-1733 E-mail：ryo.hashimoto@hayashibara-museumofart.jp
留意事項
・博物館の展示見学を行うが、訪問する館によっては入館料が必要な場合がある。その際の費用は自己負担とする。

博物館経営論				単位数	2単位
授業コード	16720	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

昨今の博物館における職員・施設・設備について具体例を示すことによって、博物館を“経営”するとはいかなる事かについて考察する。また、博物館における情報にはどのようなものがあるかを習得する。そして博物館の機能を、運営と情報発信の立場から概説する。研究と展示そのほかの活動とが、完全に一体として運営される方式が今日、求められている事を理解する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	博物館が情報の発信機関としてどのような役割を果たすべきか、論じることができる。	
2	博物館経営について、博物館の持っている多様な情報をいかに市民に還元しうるか、また、博物館における連携とは何か、ということを説明することができる。	
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　100%	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　博物館経営とは−その概念−
2　博物館ブーム−高度経済成長と市民の知的欲求−
3　博物館経営の具体例−職員、施設、設備−
4　行政と博物館経費−地方公共団体の運営事情−
5　博物館経費−人件費、委託費、光熱費等の支出−
6　日本の博物館総数−博物館経営の現状と博物館法の問題点−
7　入館者数の推移−高度経済成長、バブル経済破綻、低成長時代を越えて−
8　博物館の情報発信−市民参画の具体例−
9　あるべき博物館像−理想郷としての博物館−
10　後継者の養成−学芸員課程再考−
11　これからの博物館−新概念ミュージアムの挑戦と挫折−
12　世界へ向けての発信−博物館の連携とは−
13　博物館の知名度
14　博物館の情報媒体−ミュージアムグッズ−
15　マスコミとの連携−地域活性化の視点から−

※社会教育主事に関しては、2009年度以降入学生対象

定期試験
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 　自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社 『博物館を考える-新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社 ※購入方法についてはおって指示する。 ＜参考書等＞ なし
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく，考えながら聞くという姿勢で，授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料保存論				単位数	2単位
授業コード	16731	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	植野　哲也				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　文化財の公開・活用と維持・保存とを両立させることは、博物館にとって重要な課題であり、担当学芸員には十分な知識の習得と、的確な対応、そして日々の努力が必要とされる。科学的見地から資料の材質と劣化要因を知り、各材料・各資料に適合的な保存環境及び環境制御の方法に関する基礎的知識を学ぶ。あわせて博物館における危機管理や、資料の活用と保存について検討する。
　授業では、講義だけでなく、各授業において担当を決め、テーマに沿って事前に下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、プレゼンテーションを行っていただく。その後全員でディスカッションを行いながら授業内容を深めていただく。
　評価は授業でのプレゼンテーション及びディスカッション、２回のレポート提出をあわせて総合的に行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	博物館における「資料保存」とは、資料を収蔵庫で単に保管することを意味するものではない。現在まで伝えられてきた資料を未来へ引き継いでいくためには、法制度やその歴史、資料の材質や状態、展示・収蔵環境などにおける科学的知見、災害などに対する危機管理を含めた、多岐に渡る知識と技能が必要と	
2	これらを習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養い応用することができる。	
3	授業においてプレゼンテーションするための事前のグループワーク及びレジュメ作成、授業をもとにした美術館見学後のレポート作成することによって、内容を整理し表現することができる。	
4	プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を簡潔に説明することができる。	
5	美術館見学を通して、資料保存の視点から作品展示の工夫を論じることができる。	

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度（レジュメ作成、プレゼンテーション・ディスカッション）　60%	1／2／3／4
2	レポート　40% ※展覧会見学に合わせてレポートを課す。	1／2／3／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　美術館の学芸員として、展覧会やイベントの企画・運営・管理、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史・伝統工芸などに関する研究、それらに関連する講演やギャラリートークなどに延べ１６年間従事した経験から、博物館資料保存に関する実践的な講義を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ガイダンス　文化財の保存とは
2　文化財保存の歴史　−文化財保護法の成立まで−
3　文化財保存の歴史　−法制度の変遷と諸施設−
4　文化財ごとの収蔵方法
5　文化財保存のための資料調査　−調書作成、化学調査−
6　資料の貸借のための諸作業　−評価額の把握、梱包・輸送−
7　展覧会見学・レポート（１）
8　資料の劣化要因と保存・予防（１）−温湿度の測定と環境制御−
9　資料の劣化要因と保存・予防（２）−光と照明基準と展示活動−
10　資料の劣化要因と保存・予防（３）−ＩＰＭの概念と概略、カビ対策−
11　資料の劣化要因と保存・予防（４）−室内空気汚染と屋外環境整備−
12　資料の保存修理について
13　博物館における危機管理と資料保全−災害への対策−
14　展覧会見学・レポート（２）
15　海外博物館における資料保存の考え方

定期試験
各授業ごとに担当グループを決め、プレゼンテーションしていただく。そのためのグループワーク及び、レジュメ制作を行っていただく。 ２回行う課外授業での企画展見学を通して、レポート提出をしていただく。
試験のフィードバックの方法
授業中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各授業において講義を行うだけでなく、担当を決め、テーマに沿って事前に下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、授業ではプレゼンテーションを行い、その後全員でディスカッションをしていただく。各発表に対し、疑問を持って聞くことで、積極的な質疑から互いに内容理解を深めてほしい。（各グループでプレゼンテーション時の事前準備に約３時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『文化財保存環境学　第2版』三浦定俊・佐野千絵・木川りか著、朝倉書店 授業中に、適宜資料配布する。
オフィスアワー
質問は授業後に受け付ける。
連絡先
E-mail：s8316@m.ndsu.ac.jp 林原美術館 Tel：（086）223-1733 E-mail：tetsuya.ueno@hayashibara-museumofart.jp
留意事項
教科書は特に用いない。 その都度、必要資料を配布する。 博物館等で展覧会の見学を行うことがあるが、その際の費用は自己負担とする。

博物館展示論				単位数	2単位
授業コード	16735	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山口　雄治				
時間割備考	2023/9/6～8				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

展示・展覧会は、博物館・美術館に訪れるほとんどの人々にとって、来館の第一の目的といってよいであろう。したがって、博物館・美術館にとっても、最も時間、労力、費用を投入すべき事業である。来館者は、展示室に作品が陳列された、完成状態しか見る機会はないが、そこに至るには、様々な調査研究や、作業、調整、熟慮がある。本講義では、展示・展覧会を製作する工程を通じ、展示・展覧会の存在意義を考える。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①博物館展示の歴史と現状および課題について論じることができる。	
2	②展示パネルを作ることができる。	
3	③博物館・美術館で観覧する展示・展覧会を製作する工程を概観し、学芸員として、どのような知識、能力、準備、作業が必要か理解し応用することができる。	
4	④今後、博物館・美術館の展示はどうあるべきか、どのような展示が社会、人々に必要とされるか論じることができる。	
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポートまたは試験（80%）	1／2／3／4
2	授業態度（小レポート、実習、演習への取り組み方）　（20%）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

考古学・歴史学分野における研究成果の発信・普及啓発事業に携わっていた経験から、講義では博物館展示における考え方や方法についての現状と課題を考える。そして演習や実習では、展示を「見る側」と「作る側」の両者の視点から、自らが実践したい展示方法について議論し、展示を作成する。これらを通して、学生に今後の博物館展示に必要とされるものとは何か、あるべき姿とはどのようなものなのか、について考えてもらい、学芸員資格取得後の実践イメージの構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　講義　博物館と展示の種類
2　講義　展示とは何か
3　講義　展示空間の構成
4　講義　展示の芸術性
5　講義　展示の科学
6　講義　展示の解説と造形
7　講義　展示の照明技術
8　講義　展示の図録
9　講義　展示における学び
10　講義　展示をつくる（パネル文章）
11　実習　展示をつくる（パネル制作）
12　実習　展示をつくる（レイアウト）
13　演習　博物館見学（考古）
14　演習　博物館見学（資料収蔵）
15　演習　博物館見学（美術）

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で、内容に関する参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。特にレポート試験では、小レポートと講義・演習・実習および博物館見学で深めた知識を用いて、多角的かつ発展的な論述を望む。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし ＜参考書等＞ 講義中に紹介する
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s8312@m.ndsu.ac.jp
留意事項
実際の博物館等を見学しながら学ぶ講義がある（入館料が自己負担となる場合もある）。

博物館教育論				単位数	2単位
授業コード	16741	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

教育機関としての博物館・美術館の役割を理解する。博物館・美術館は地域社会とどう連携するかを理解する。博物館教育論には大きく二つ①子供向けカリキュラム②大人向けのカルチャーセンター的役割がある。市民が博物館を日常的に活用できるような工夫が重要である。その為には義務教育制度として博物館を学校教育に位置づけていく事、大人の博物館ボランティアを社会制度として位置づけていく事が望まれる。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	教育機関、生涯学習機関としての博物館・美術館の役割を説明できる。	
2	学校教育における、博物館・美術館の存在を具体的に提起できる。	
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　100%	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　博物館学と教育制度Ⅰ-教育の本質及び目標と博物館-
2　博物館学と教育制度Ⅱ-学校教育と博物館教育-
3　博物館が学校教育に占める役割についてⅠ-博物館教育の構造-
4　博物館が学校教育に占める役割についてⅡ-学校教育と博物館の連携・協力-
5　博物館における教育評価の目標と方法-ワークシート、体験型学習の具体例と成果-
6　立体化した教科書としての博物館Ⅰ-博学連携の実践例-
7　立体化した教科書としての博物館Ⅱ-古代出雲歴史博物館の教育普及事業から学ぶ-
8　博物館・美術館と生涯学習Ⅰ-生涯学習の意義と取り巻く環境-
9　博物館・美術館と生涯学習Ⅱ-生涯学習を支える組織-
10　博物館の機能と現状
11　博物館利用者と学芸員-博物館と地域社会との関係-
12　生涯学習の指導者としての学芸員Ⅰ-博物館利用者と学芸員-
13　生涯学習の指導者としての学芸員Ⅱ-今後期待される学芸員による学習支援-
14　生涯学習の指導者としての学芸員Ⅲ-大阪歴史博物館の教育普及活動から学ぶ-
15　学芸員の未来像-学校外教育の場-

定期試験
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 　自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『授業に役立つ古代出雲歴史博物館活用の手引き』 『なにわ歴博探検　大阪歴史博物館の利用の手引き』 上記2冊を学芸員課程から貸出。
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく，考えながら聞くという姿勢で，授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館情報・メディア論				単位数	2単位
授業コード	16751	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三河内　彰子				
時間割備考	2023/9/12~15				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

博物館自体を社会におけるメディアとしてとらえる視座と、さらに微視的な意味でのメディア（情報機器やデジタルメディア）が博物館で果たしている役割について考えることで、博物館の収集・保存・展示活動がいかにして形作られているのかを吟味します。

博物館は単に「モノ」を見せる場ではなく、それを取り巻く「情報」を扱い、メディアとして社会における様々な「意味」を媒介させます。このような博物館の中で、来館者はどのような体験をするのでしょうか。その体験はどのようなメディアの仕組みがあり、「モノ」や「人」とのどのようなコミュニケーションが展開されることによってもたらされているのでしょうか。

授業ではこれらのプロセスについて、国内外の事例を検討し、博物館における情報とメディアの歴史的変遷や多様な現状を通じて包括的に学びます。特に近年は急変する社会において、博物館の定義自体が再吟味されています。例えば、コロナ禍、デジタルメディアの活用は飛躍的に進み、「モノ」を中心としたミュージアムの活動はより多様に、そして地域社会での役割や連携がより一層求められています。このような背景から、特にアーカイブの意義と方法、デジタルメディアの活用についてはメディア論の視点から吟味し、今日的な社会的な問題に対しても寄与する博物館、将来皆さんが作り上げてゆくより社会に開かれたミュージアムの未来像も範疇として議論します。

授業は講義のほか、小規模フィールド調査、ワークショップ、グループワーク、現場や専門家とオンラインで繋いだ授業や博物館への訪問など、理論と実践を行き来します。その中で実際にICTを適宜活用し、互いの見解を共有し検討することで気づきを得て理解を深めます。（現段階の予定なので、これらのいくつかを実施、または、他の案を取り入れることもあります）。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	博物館がメディアであることを理解し、博物館の活動をメディア論的な視点から捉え、分析や討論をすることできる。	
2	博物館活動における情報の意義とあり方を理解した上で、情報機器やデジタルメディアの役割を多角的な視点から吟味し、様々な文脈によって活用方法を選択、もしくは提案できる。	
3	メディアとしての博物館の特徴を吟味するために必要な初歩的な調査を実行し、その結果について互いに建設的な分析ができるよう情報メディアを用いて情報発信と議論が行える。	
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への参加度・貢献度　50%	1／2／3
2	グループ発表　20%	1／2／3
3	レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　イントロダクション
2　メディアとしての博物館（１）：メディアとしての博物館とは
3　メディアとしての博物館（２）：モノ、人、社会/文化のコミュニケーション
4　メディアとしての博物館（３）：博物館におけるメディア・リテラシーとは
5　社会に開かれたミュージアム（１）：来館者研究の系譜
6　社会に開かれたミュージアム（２）：多様性とメディア
7　社会に開かれたミュージアム（３）：アクセシビリティとメディア
8　社会に開かれたミュージアム（４）：ユニバーサル・ミュージアム
9　デジタルメディア時代の博物館（１）：アーカイブとドキュメンテーション
10　デジタルメディア時代の博物館（２）：博物館と知的財産権
11　デジタルメディア時代の博物館（３）：博物館におけるICT
12　デジタルメディア時代の博物館（４）：博物館とインターネット
13　メディアとしての博物館の今後を検討する：博物館教育と情報・メディア・コミュニケーション
14　メディアとしての博物館の今後を検討する：博物館にとっての「地域」「連携」「協働」とは
15　最終課題の講評会と総括

※初回にアンケートを取り授業に反映するほか、授業の進行状況をみて変更することがある。

定期試験

課題レポートを提出

試験のフィードバックの方法

講義中に指示する

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

１．指示された参考文献を用いて各自予習や復習・振り返りを行うこと。
２．授業で得た知見や視点をその日のリフレクションで振り返り、また課題に活かすこと。そのことで、教室の外でもそれらを意識できるようにすること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞以下の他に授業資料で取り上げ、配布する文献、URLもあり
伊藤寿朗（1993）『市民の中の博物館』古川弘文館.
Dubin, Steven C. (1999) “Displays of Power: Controversy in the American Museum from the Enola Gay to Sensation.”
寺島洋子(2013)「展示と来館者を繋ぐ補助教材」『博物館教育論』NHK出版.
西岡貞一・篠田謙一(2013)『博物館情報・メディア論』NHK出版.
ハイン, ジョージ, E (1998/2010) 『博物館で学ぶ』鷹野光行監訳, 同成社
広瀬浩二郎（2012）『さわって楽しむ博物館―ユニバーサル・ミュージアムの可能性』青弓社.
Hooper-Greenhill, Eilean (1992) “Museum and the Shaping of Knowledge,” Routledge.
マックリーン, キャスリーン. (1993/2003) 『博物館を見せる』井島真知・芦谷美奈子訳, 多摩川大学出版部.
三河内彰子（2016）「博物館とは」『見る目が変わる博物館の楽しみ方』矢野興一編, ベレ出版.
水越伸・飯田豊・ 劉雪雁,『メディア論』（2018）放送大学教育振興会（放送大学教材).
村田麻里子（2014）『思想としてのミュージアム-ものと空間のメディア論』人文書院.
村田麻里子（2015）「メディアとしての空間」『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』長谷川一・村田麻里子（編著）三省堂.

オフィスアワー

質問は授業後に受け付ける。メールでの問い合わせの場合は、件名に必ず学校名と授業名を書きこむこと。

連絡先

akikomk@gmail.com

留意事項

各自の理解 を軸とする実践的な授業を行います。受講生の積極的な参加及び互いから学びあう姿勢が求められます。
講義内容に合わせ、適宜フィールドワークや博物館見学等を行う予定です。連絡事項に留意してください。

博物館実習				単位数	3単位
授業コード	16760	科目ナンバリング	550Z0-3000-x3	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	紺谷　亮一、横山　定				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

博物館資料はどれだけのことを語りえるのか。博物館や学芸員は文化財と来館者とをつなぐパイプ役として，どのような文化的な役割と社会的な責任を負っているのか。本授業では，これらについて考えながら，多岐にわたる学芸員の実務を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	博物館や学芸員の多様な仕事について総合的に理解し、説明できる	
2	博物館資料を実際に扱うことができる	
3	カメラの操作等に関する技術を実行できる	
4	展示やギャラリートークなどを企画、実行できる	
5	感性を磨くとともに，学芸員としての自覚を高め、応用できる	

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	発表・レポート　60%	1／4／5
2	実務（館務）実習　30%	1／2／3／4／5
3	授業態度　10%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験、また岡山県立博物館の学芸員（副館長）として博物館業務に携わっている経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、将来的な新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策の違いを実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　演習・基礎　博物館法や博物館の環境管理を確認しよう
2　実習・体験　考古資料の取り扱いをしてみよう1-土器-
3　実習・体験　考古資料の取り扱いをしてみよう2-ガラス器-
4　実習・見学　岡山シティミュージアム
5　実習・見学　岡山大学埋蔵文化財センター
6　実習・見学　岡山市オリエント美術館
7　実習・体験　考古学の現場1
　　-多視点写真測量実習（ラジコンヘリカメラ）-
8　実習・体験　考古学の現場2
　　-多視点写真測量実習（ポールカメラ）-
9　実習・体験　展覧会を企画しよう1
　　-担当教員監修展覧会イラン展を元に-
10　実習・体験　展覧会を企画しよう2
　　-担当教員監修展覧会アッシリア展を元に-
11　実習・体験　展覧会企画のプレゼンテーションをしよう1-発表-
12　実習・体験　展覧会企画のプレゼンテーションをしよう2
　　-発表と評価-
13　実習・基礎　展覧会カタログについて学ぼう
14　実習・体験　博物館実務（館務）実習館の事前調査をしよう
15　実習・体験　調査結果のプレゼンテーションをしよう
16　実習・見学　岡山県内の博物館・美術館見学
17　講義　第Ⅰ期　まとめ
18　演習・体験　史料の取り扱いをしてみよう1-基本編-
19　実習・体験　史料の取り扱いをしてみよう2-応用編-
20　演習・基礎　文化財の搬送の基本を知ろう
21　演習・基礎　実際の展示作業から取り扱いの要点を学ぼう
22　演習・基礎　展示体験1　展示室の特徴を把握しよう
23　実習・見学　展示鑑賞と展示室や設備を知ろう
　　（岡山シティミュージアム）
24　実習・体験　展示体験2　平面図を考えよう
25　実習・体験　展示体験3　パネル等制作の基本を体験しよう
26　実習・体験　展示体験4　自分の力でパネルを作ろう1-製作-
27　演習・基礎　展示体験5　自分の力でパネルを作ろう2
　　-製作と調整-
28　実習・体験　展示体験6　パネルを展示してみよう
29　演習・基礎　展示体験7　展示を完成させよう
　　-照明や展示案内など-
30　実習・体験　展覧会チラシについて考えよう
31　演習・体験　文化財の写真を撮ろう1-立体物-
32　実習・体験　文化財の写真を撮ろう2-平面のもの-
33　演習・基礎　普及活動とグッズやカフェの魅力
34　演習・基礎　広報・連携と博物館を支える人びと
35　講義　第Ⅱ期　まとめ

定期試験
発表・レポート、実務（館務）実習によって総合的に行う。
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 予習・復習で2時間程度が望ましい。 自主学習や自主的な博物館・美術館訪問など、関心を持って取り組んで欲しい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
紺谷：kontani@post.ndsu.ac.jp 横山：okbunkaisan@gmail.com
留意事項
第Ⅰ期は紺谷亮一教授，第Ⅱ期は横山定講師（岡山県立博物館学芸員・副館長）が担当する。本学での授業のほか「実務（館務）実習」を大原美術館・林原美術館等でおこなう予定である。「実務（館務）実習」は例年8日間程度実施される。「実務（館務）実習」には事前・事後の指導がともなう。